

ピース・フェスティバル in 大和・綾瀬 2013

10/12(Sat.)

AM10:00 ~ PM3:00

●ピース・コンサート

パク ボー
朴保バンド (メッセージロック)

カテリーナ (ウクライナの歌姫)

イ チョンミ
李政美 (歌、チャング)

寿 Kotobuki (沖縄島唄)

DAPダンスパフォーマンス



アジアに平和を、静かな空を！

●模擬店コーナー

沖縄物産、低農薬野菜、焼き鳥、おでん、焼きそばなどなど…!

●アジアの平和と基地問題を考えるパネル各種

厚木基地の大型模型、オスプレイの危険性、写真で見る沖縄の米軍基地、他

模擬店募集中! 9月24日締め切り※お申し込みはFAX:042-756-5649まで

大和駅東口広場に平和を願う市民が集います!

会場/大和駅東側プロムナード

主催/ピース・フェスティバル2013 in 大和・綾瀬実行委員会

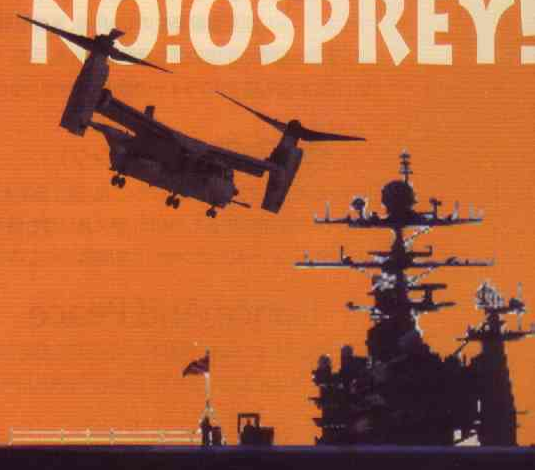
連絡先/TEL:046-240-7450 (10~15時)

後援/大和市、綾瀬市、大和市・綾瀬市教育委員会

NO!WAR!

NO!NUKE!

NO!OSPREY!



Wars and nuclear power accidents
Both are the worst condition to humans.
Both are the worst cause of environmental destruction.

Peace Festival in YAMATO・AYASE 2013

● 市民の皆さんへ ●



アジアに平和を! 静かな空を! 「平和」への願いを込めて毎年開催しているピースフェスティバルも、今年で12回目となります。私たちの願っている、この「平和」という意味は、だれもが等しく安心できる生活を送ることができるということだと思います。しかし私たちのまわりでは、必ずしもそれが保証されていません。多くの危険、生活不安があふれているのではないのでしょうか。



昨年からの、基地の爆音被害は、例年にも増して激しいものでした。そしてだめ押しでもするかのように6月末から7月はじめにかけて、深夜に爆音が轟きました。夜間10時以降の、飛行してはいけない時間帯に、100デシベル以上の爆音を14回も計測したということです。大和市も綾瀬市もこれに対して厳重に抗議し、基地司令官は謝罪したとのこと。

2007年に提訴した第四次厚木爆音訴訟は、今年9月の公判で結審となりました。爆音被害の損害賠償と、飛行差し止めに向けて、公正な判決を求めています。また、ジェット機は導入しないという自治体との約束を破って配備された哨戒機P-1に、エンジントラブルが発生しました。もう飛んでほしくないというのが市民の素直な感情です。このように市民・自治体が力を合わせ、爆音被害をなくすとともに、戦場で多くの命を奪うことになる米軍機の訓練をやめさせるよう運動が続いています。



飛んでほしくないものと言えば、米軍の垂直離着陸輸送機オスプレイです。昨年10月に沖縄の普天間基地に配備され、今年8月にも追加配備がされました。昨年、沖縄を中心に訓練飛行を繰り返していますが、配備前に合意したルールに違反した飛行が常態化しています。住民の安全を確保するために取り決めたルールを守らないようなものを飛ばすわけにはいきません。オスプレイは厚木基地にも飛来する可能性があります。これも私たちの安心な生活を脅かします。



東日本大震災から、約2年半が経過しました。しかし、東京電力福島第1原子力発電所では、高濃度の汚染水が漏れ出し、中心部に近寄ることができないなど収束とはほど遠い現状です。除染も進まず、住民の帰還もままなりません。しかし、7月に入り、各地の原子力発電所では再稼働の申請をするなど、住民の安全を二の次にした動きがあります。



ヒロシマ・ナガサキ・フクシマを経験した私たちの願いはただひとつ。子どもたちの未来のために放射能被曝の不安もない、核も戦争もない平和な世界を実現することです。そして、その未来につながるように、この県央の地から、基地による被害を無くしていきたいと思えます。アジアに平和を! 静かな空を! ピースフェスティバルから、「平和」が発信されます。みなさん、ぜひ、ご来場ください。

2013年 ピース・コンサート出演者

● 朴保 BAND (メッセージ・ロック)

1979年デビュー。「朴保&切狂言」をへて、1983年単身渡米。サンフランシスコで自身のバンドを率いて活動し、西海岸の平和運動と音楽シーンに於いて注目を集める。1992年帰国後も様々なピースムーブメントに係わりながら、ドキュメンタリー映画『A』(監督:森達也) エンディングテーマなどでも活躍。「もんじゅを止めよう!」など、一貫して反戦・反核の姿勢を貫き、大人のメッセージロックを演奏。今年はアコースティックのデュオで、じっくり深くお聞かせします。

● 寿Kotobuki (沖縄島唄、他)

1985年、沖縄生まれのナーグシク・ヨシミツと広島育ちのナビィが結成。戦渦をくぐり抜け歌い継がれた琉球弧の島唄を現代に歌い継ぐ。解放直前のエストニア・サマー・ロック・フェスティバルに日本代表で参加。自由を求める人々で埋め尽くされた会場での感動が、その後の彼らの道を決める。ピース・ボートなどで中国、ベトナム、フィリピン、チリ、ヨルダンのパレスチナ難民キャンプなどを訪れコンサートを開催。人権・環境・平和等、市民活動への音楽によるエンパワーを志し活動している。

● カテリーナ (歌、バンドゥーラ)

チェルノブイリ原発事故発生1カ月前、事故現場からわずか3キロのプリピャチという町で生まれる。チェルノブイリ原発労働者として一家を支えてきたお父さんは、放射能被曝が原因の癌を発症して他界。現在、一児の母として日本に暮らしている。ウクライナの民族楽器バンドゥーラを奏でながら、古曲や民謡、流行歌を中心に、日本の歌も歌うウクライナの歌姫で、今年7月には日テレ「のどじまん外国人ザ・ワールド」にも出演。しっとりとした情感の歌が好評を博した。

● 李政美 (歌、チャング)

東京・葛飾生まれの在日コリアン二世。国立音楽大学在学中から朝鮮民謡、フォークソング、フォルクローレなどをうたいはじめ、ドラマ・映画の挿入歌等も手がける。子育て・充電期間を経て、'94年に屋久島に住む詩人・山尾三省と出会う。彼の詩「祈り」に曲を付けうたったのをきっかけにオリジナル曲を作り始め、現在はオリジナル曲を中心にライブ、コンサートを展開。心にしみとおるその深く透明な歌声で、日本全国及び韓国全土にファンの裾野をひろげている。

● Dance And Peace

相模原を本拠に、厚木、南林間、つきみ野などのカルチャーセンターのダンス教室に集う地元の子どものダンス・パフォーマンス。演目は、hiphop、jazzdance、locking、house、など多彩。各地の市民祭りでも引っ張りだこで、厚木の鮎祭り、相模大野北銀河まつり、大和の市民祭りにも参加しています。